

豊根村簡易水道事業経営戦略

(概要版)

豊かに根ざす村

令和8年2月



目次

1. はじめに	1
1-1. 経営戦略策定の目的	1
1-2. 計画期間	1
2. 事業概要	1
2-1. 現状の把握	1
2-1-1. 水道諸元	1
2-1-2. 水道施設の配置	2
2-1-3. 給水料金	2
2-1-4. 組織体制	3
3. 将来事業計画	4
3-1. 給水人口の予測	4
3-2. 給水量の予測	5
3-3. 料金収入の予測	6
3-4. 水道施設の将来	7
3-5. 組織体制の将来	7
4. 経営の方針	7
5. 投資・財政計画	8
5-1. 投資・財政計画	8
5-2. 収支計画	8
5-3. 今後の課題と取組	9
6. 経営戦略の事後検証と更新計画	9



1. はじめに

1-1. 経営戦略策定の目的

本村の水道事業は、山間地域特有の不利な条件を克服しつつ、1972年(昭和47年)に坂宇場簡易水道の建設に始まり、5つの簡易水道と2つの飲料水供給施設の建設、これらに平成17年の旧富山村との合併により、富山簡易水道を加え、2010年(平成22年)簡易水道6ヵ所と飲料水供給施設2ヵ所を豊根村簡易水道として統合を行いました。2025年(令和7年)現在、浄水場7ヵ所、計画1日最大給水量622m³で給水を行っています。

しかし、施設全体が20年を超え、古い物では50年を経過した施設もあり、老朽化への対策が必要となっています。加えて大地震への備えである耐震化への対応も不可欠となっています。

一方で、人口の減少に歯止めがかからず、少子高齢化も進んでいることから厳しい状況が続くものと捉えています。

施設や管路の維持管理や耐震化を少しずつ行っていますが、これらの整備には莫大な費用が必要となっています。国や県の補助金、企業債の借入、一般会計の繰入など料金収入だけでは維持できないのが現状であり、少しでもこれらの財源が小さく済むよう、現状の整理、問題点などを明確にして、計画的な改修や修繕を行い、無理のない持続可能な水道経営をめざしていかなくてはなりません。

毎年度の進捗管理や3~5年毎の改定を通じて、PDCAサイクルを確立していくことにより、次の10年を目指すことを目的にすることで、経営基盤の強化と財政マネジメントの向上に資するものとなると考えます。

1-2. 計画期間

2025年度より2035年度の10年間

2. 事業概要

2-1. 現状の把握

2-1-1. 水道諸元

2024年度(令和6年度)末時点での値は以下のとおりです。

供用開始年月日(創設)	1973年(昭和48年)4月1日
供用開始年月日(全戸)	1999年(平成11年)4月1日
計画給水人口	1,329人
計画1日最大給水量	622m ³ /日
豊根村総人口	918人
現在給水人口	904人
現在1日最大給水量	622m ³ /日



2-1-2. 水道施設の配置

本事業の水道施設は、全ての浄水施設で河川表流水を水源とし、川宇連浄水場、牧野浄水場、三沢浄水場、大沢津川浄水場、牧ノ嶋浄水場、富山浄水場、猪古里浄水場の7浄水施設と、17カ所、43池の配水施設、総延長114,392mの導送配水管を有しています。

2-1-3. 給水料金

現行の料金体系は、基本料金と従量料金の二部料金制としています。基本料金については、口径別に差別制としています。直近の料金改定は平成元年3月12日に行っています。以下に口径別の基本料金と使用料別水量料金を示します。

口径別の基本料金

口径別	基本料金
13mm	1,000円
20mm	1,500円
25mm	2,500円
30mm	4,000円
40mm	5,000円
50mm	10,000円

使用料別水量料金

区分	水量	料金
一般用	10m ³ まで	50円/1m ³
	10m ³ を超え20m ³ まで	100円/1m ³
	20m ³ を超え50m ³ まで	150円/1m ³
	50m ³ を超えるもの	200円/1m ³
臨時用	1m ³ につき	250円





2-1-4. 組織体制

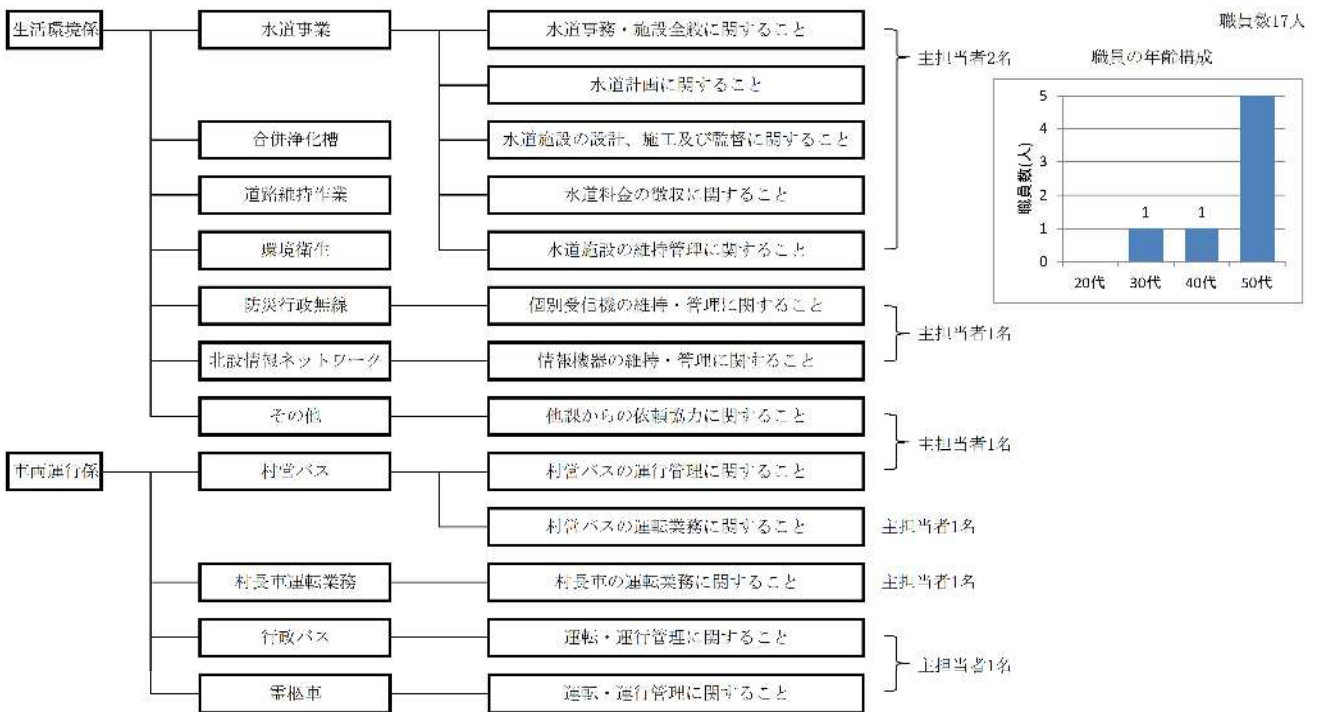
2025年度(令和7年度)現在、水道に関する業務は生活課で行っており、車両運行に関する業務を兼務しながら従事しています。

水道事業については、設計、施工、監督、事務及び料金徴収関係と施設の維持管理関係を含め2名で対応しています。なお、緊急時や点検補修などの人手を要するときは生活課全体で対応することとしています。

詳細は以下の生活課組織図のとおりです。

表-6 生活課組織図

(別紙-1)





3. 将来事業計画

3-1. 人口(給水人口)の予測

給水人口の予測については、豊根村の総人口を基準に推計する必要があります。

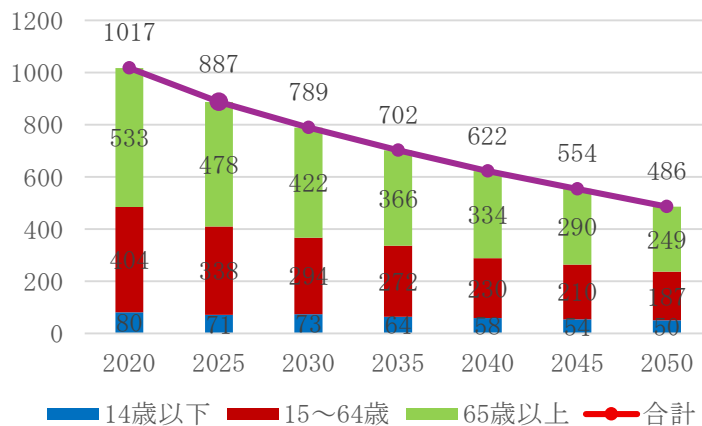
社人研による日本の地域別将来推計人口 令和5(2023)年推計によると、豊根村の長期的見通し人口推計で、今後の変化を前提としない場合、2050年には486人まで減少するとされています。

豊根村むらづくりビジョン2027(豊根村第6次総合計画)としては、「しごと」、「ひと」、「くらし」の3つの将来目標を設定し、人口減少に対し歯止めをかけ2060年の豊根村人口を900人程度確保していくこととしています。この目標に合わせ各年度の人口を予測します。

以下に、社人研の推計による今後の変化を前提としない人口推計グラフと、人口減少に対する取組を考慮した人口推計を基に、計画10年間の推計グラフを示します。

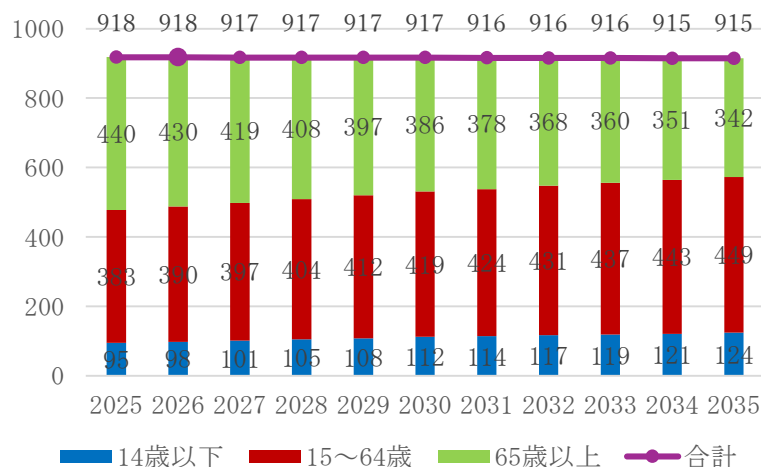
なお、計画10年間推計値については、2035年の推計結果と2025年の実績値を基に、中間の年度を比例補間により計算しています。

今後の変化を前提としない人口推計グラフ



出典：社人研 令和5(2023)年推計

計画10年間の推計グラフ





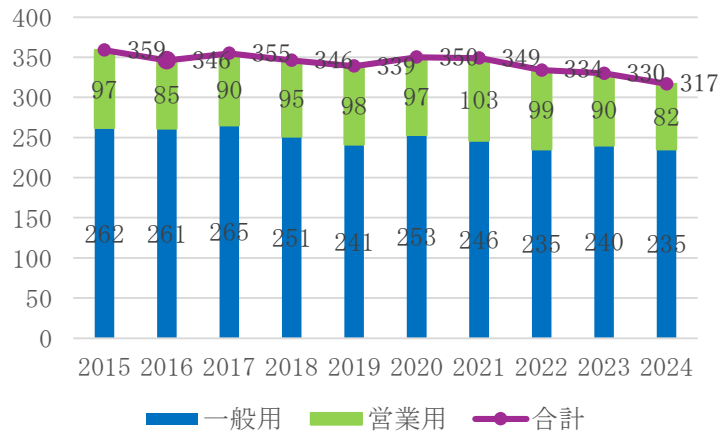
3-2. 給水量の予測

給水人口の予測が減少傾向に進んでいることを受け、有収水量も減少することが予想されます。過去の給水量実績を基に、先に算出した給水人口予測と合わせ計画 10 年間の水需要予測を立てていきます。

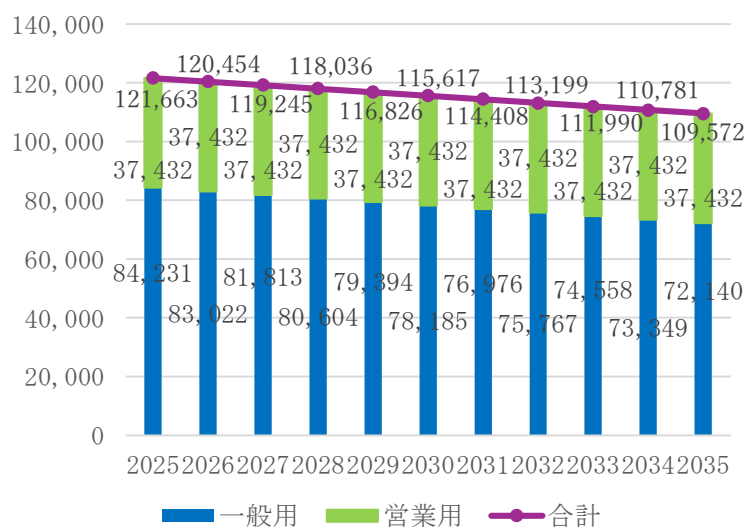
1 日あたりの平均使用量は、一般用で 250m³ 前後、営業用で 100m³ 前後とほぼ横ばいで推移しています。割合的には 7 割程度が一般用での使用となっています。業務営業用は、コロナ禍の影響もありましたが解消傾向に転じていることから、使用量が上向き傾向の施設も出ています。将来的にも人口の減少が進むことを受けて、一般家庭での使用量が減少していくことが見込まれる反面、業務用での回復も期待できるものと考えます。

以下に使用水量の実績グラフ(表-14)と、推計結果グラフ(表-16)を示します。

有収水量の実績値グラフ



有収水量の推計値グラフ





3-3. 料金収入の予測

水需要の予測が減少傾向にあわせ、料金収入も減少することが予想されます。水需要の予測を基に基本料金と従量料金を算出しました。

料金収入が減少していく見込みであるため、水需要者に理解を求め、適切な時期を図って料金改定を行っていく予定です。

以下に水道料金の実績グラフ(表-18)と、推計結果グラフ(表-20)を示します。

表-18 有収水量の実績値グラフ

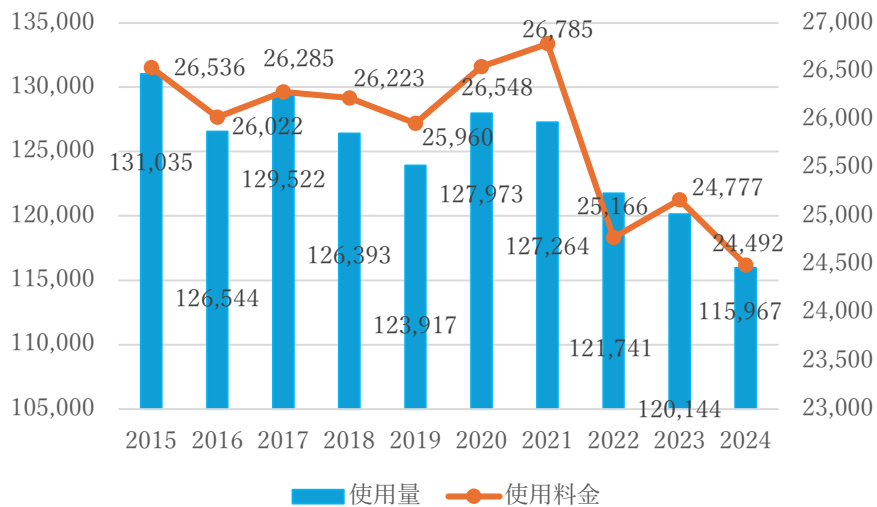
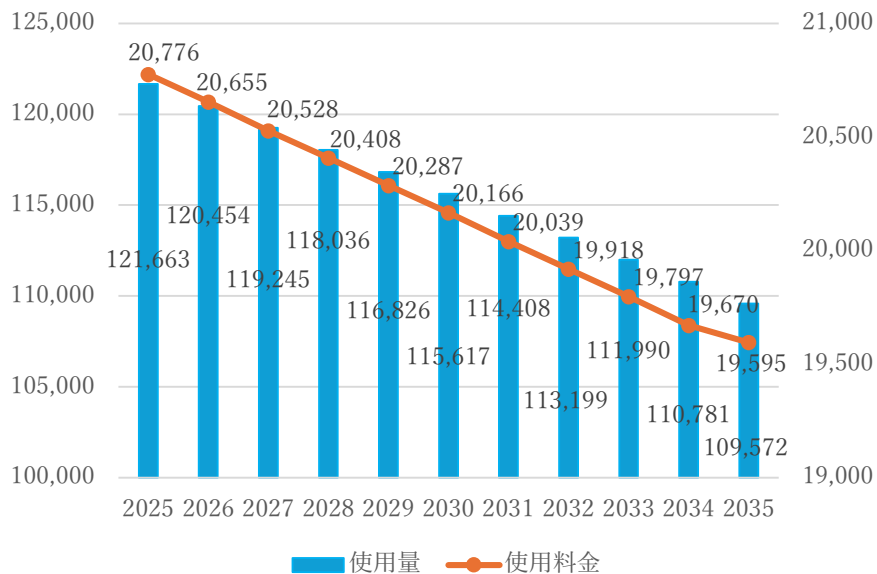


表-20 有収水量の推計値グラフ





3-4. 水道施設の将来

本村の水道事業は、旧簡易水道の統合を行い、現在豊根村簡易水道として運営を行っています。古くなった管路は耐震性の観点からさらなる更新が必要と考えています。

現状の取組として、国や県の補助を受けつつ塩化ビニル管路を中心に布設替えを進めています。今後も制度を活用しつつ管路施設の充実を図っていきます。

施設については、少しでも長く利用が出来るよう対策を立て、浄水施設の井戸水への切替も検討していくことより改良費の縮減も期待できるものと考えています。いずれ訪れる更新時期に備え管路と共に、計画的に事業を行っています。

3-5. 組織体制の将来

現体制が2名の担当者在り、いろいろな業務に従事しており、これ以上の人員削減は困難な状況です。負担軽減や後継者の育成のため増員を望むところではありますが、経費面から現体制を維持していく必要があります。緊急時や点検補修時には生活課全体で対応することも維持し、安定した水道水の供給を目指し、東三河地域による協力体制を整え、職員の人材育成を行います。

4. 経営の方針

- ・安全で良質な水の安定供給
- ・持続可能な経営基盤の強化
- ・計画的な施設更新
- ・広域連携・官民連携
- ・人材育成と技術継承の推進
- ・住民サービスの向上と情報公開



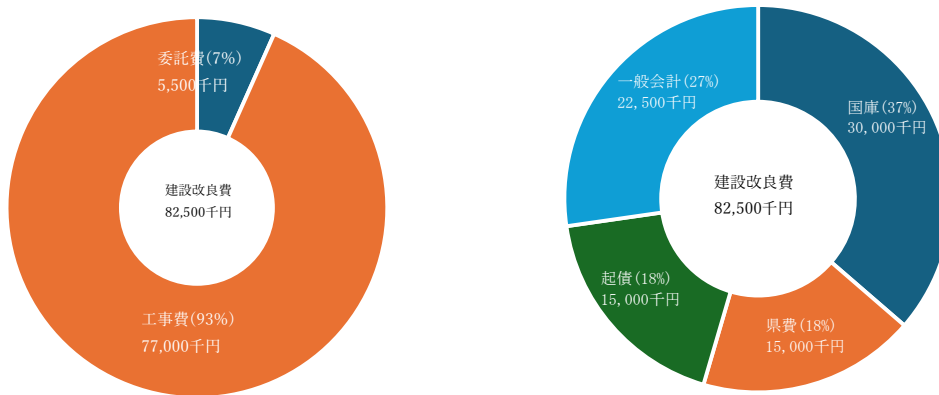


5. 投資・財政計画

5-1. 投資と財源計画

本水道事業の投資につきましては、まず配水管路の強化を進めていきます。総管路延長 115km の中から重要施設への給水を確保すべく、国庫及び県費の補助金、起債の借入、一般会計からの繰入等を頼りに、改良延長 2.0km 程度、額にして 82,500 千円の規模で、更新管路の優先順位を定め効率的に整備を進めます。

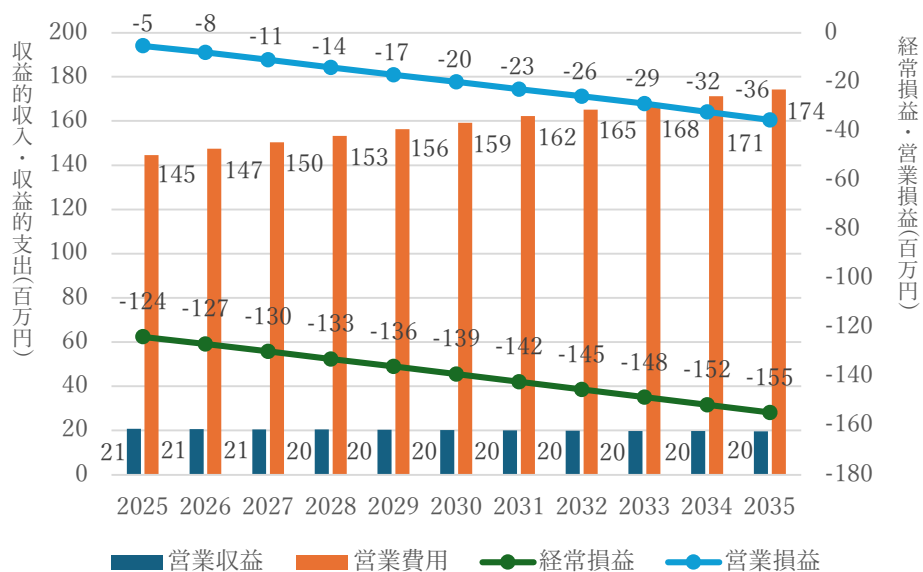
財政につきましては、建設費を国庫及び県費補助金、起債の借入、一般会計の繰入で賄ってきました。昨今の、耐震化、老朽化に対する改良も同様の財源を頼りに進めています。料金収入のみでは難しいためいろいろな財源を活用してまいります。



計画期間 2025 年～2035 年まで毎年同額を予定

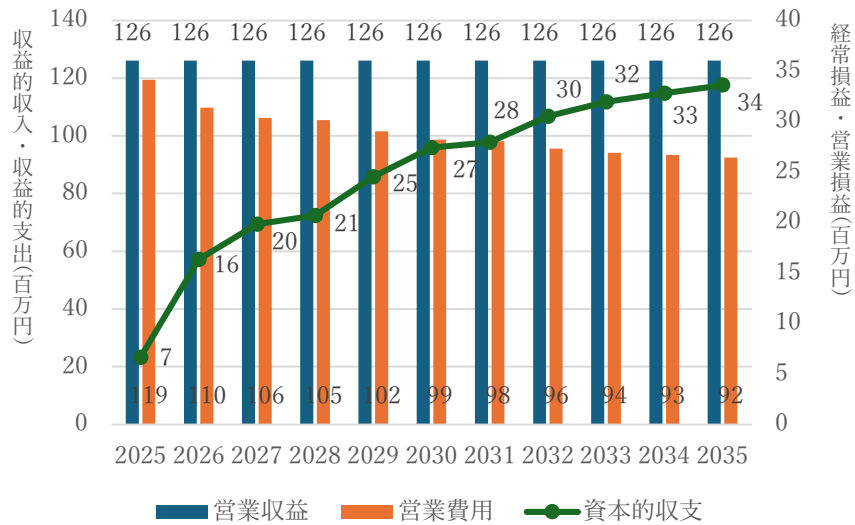
5-2. 収支計画

収支予測は、収益的収支において収入を支出が大幅に上回り、経常損益・営業損益はマイナスで推移します。





資本的収支においては、収入が支出を上回っていますが、起債の借入や一般会計からの繰入額で賄っている状況です。



5-3. 今後の課題と取組

令和5年度の実績値と計画年度内の推計結果を踏まえ、本事業が抱えている課題と、改善に向けて考える取り組みを以下に整理します。

- ①企業債比率の高さ
- ②施設利用率の低さ
- ③有収率の低さ
- ④給水原価の高さ
- ⑤人員不足と技術継承

6. 経営戦略の事後検証と更新計画

今回策定をした経営戦略は、2035年度までの10年間の計画となっています。いろいろな取組の基、持続可能な水道事業経営を目指し、PDCAサイクルを活用し進捗状況を確認しながら、事業内容の検証を行い、必要な改善を行っていきます。





豊根村役場 生活課

〒449-0403

愛知県北設楽郡豊根村下黒川字蕨平 2

TEL0563-85-1315

FAX0536-85-1701

E-Mail : seikatsu@vill.toyone.lg.jp